



海外ボランティアと住民が伐づくりをする

外国人ボランティアと 地域住民による 大沼ラムサール地区の環境保全活動

環境保全活動の
見える化として、
ヨシ筏を製作する

200基

ラムサールに関心を
持つ人たちからの
アンケート協力

200人

活動の全体目標に
対する達成度

90%

課題

2012年に、ラムサール登録になった大沼は、コンパクトな地域に、漁業者、農業者、観光業者などがあり、環境に配慮した地域形成を目指したい。

目標

漁業者、農業者、観光業者の方向性は必ずしも一緒ではないことから、ニュートラルな位置にいる海外ボランティアや、ラムサール女子会などを絡めて、環境に配慮したラムサール地域を構築する。

活動内容

ラムサールに関心のない人たちを巻き込むべく、ラムサールシンポジウムを毎年開催し、環境への啓蒙活動を行った。また、海外ボランティアとの環境保全活動や、ラムサール女子会によるエコツアー、ラムサールグッズの販売なども販売し、会員獲得をすることによって、今後の自律的な経営を進めるように活動をしてきた。その中で、自治体の理解も深まり、また企業のCSRにつながる活動を生むことができた。



NHKの番組で活動が
大きく広報される

達成できなかったこと

ラムサールの拠点としての、センターづくりが交渉半ばなことと、エコツアーが自立した経営の中で収入を担うところまでは達成できなかった。

今後の展望

大沼ラムサールの環境保全活動と、住民の合意形成の取り組みを、様々な地域に伝え、発信をしてゆきたい。

成果と工夫した ポイント



成果

エコツアー参加60名、シンポジウム参加300名、海外ボランティア45名、大沼の新たなアンケートに200名参加、小中学生100名にアプローチし、環境について語る機会を設けた。

工夫

ステークホルダーが、環境をキーワードにすると対立する時に、未来にベクトルをおいた話し合いを行った。